

<先週の説教から>

『ミカ⑥ - 民を惑わす者は誰?』

武田真治牧師

ミカ書 3:5-12 エフェソ手紙 4:11-15

ミカは、故郷のモレシエトという小さな村で神様から預言者としての召命(=神様からの幻と言葉が与えられる)を受けて、首都エルサレムに行き、人々に「(このままでは)エルサレムが滅亡するから、悔い改めよ」と語り掛けました。ところが、それに対して「たわごとを言うな」と真っ向から反対して来たのが今日の箇所にもでてくる民の指導者たちでした。実は彼らがエルサレムの罪の根源だったのです。即ち「頭たちは賄賂(わいろ)を取って裁判をし、祭司たちは代価を払って教え、預言者たちは金を取って託宣を告げる」と。特に今日の箇所では、当時の「預言者」たちの悪行=罪について告発されています。「わが民を迷わす預言者たちに対して、主はこう言われる。彼らは歯で何かをかんでいる間は平和を告げるが、その口にも与えない人には戦争を宣言する」です。彼らは人を見て、お金や物をくれる人にはいい言葉を取り継ぎ、何もしてくれない人には不幸や災いを予告すると。その姿は預言者ではなく「占い師(=ヘブル語でカーサム、新共同訳では「託宣を告げる者」)ですが、新しい聖書協会共同訳では「占い師」と訳出)に過ぎないと!まさに「偽預言者」ではないでしょうか。そのような者たちには、もはや「(神様からの)幻はなく、暗闇が臨んでも、託宣は与えられない」と“裁き”が語られます。

以上のような酷い状態にも関わらず、民の「頭たち」や「祭司たち」や「預言者たち」は口を揃えて『主が我らの中におられるではないか。災いが我々に及ぶことはない。』と言っていたというのです。悪行を繰り返しながらも、なぜそんなに自信があったのでしょうか? その理由は「エルサレム神殿」の存在でした。この『主が我らの中におられる』という言葉の意味こそエルサレム神殿が都の中央に建っており、そこでは毎日、祭儀が催げられており、定期的に催される祝祭は毎回、盛大に行われており、巡礼者が大勢訪れていたからでした。このような“神の家”の繁栄があるのに、どうして災いが来るはずか

い、神様が守ってくださるに違いないと思っていたのです。

それに対してミカが「それゆえ、シオン(=エルサレム神殿の建つ場所)は耕されて畑となり、エルサレムは石塚に変わり、神殿の山は木の生い茂る聖なる高台となる」と、神殿も町も滅ぼされ崩され、跡形もなくなると。むしろ元の姿に戻ると。まさに『国破れて山河在り、城春にして草木深し』(杜甫)です。

ただ、この預言には“再生・復活”のメッセージも込められています。その「草木が生い茂る」場所そのものが「聖なる高台(=旧約によく出て来る偶像礼拝場所はバーマーハですが、ここはハル=丘です)」となると。私はイエス様が十字架に架かられた《ゴルゴダの丘》を想起しました。イエス様ご自身で“死・滅び”の場所を“復活”の場所に変えて下さったのです。滅ぶべき私たちを“復活の命”へと変えてくださるのです!

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 10月18日(水) 20:00
II. 10月19日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答

祈祷主題: 埼玉地区を覚えて

担当者: (水) 松田 (木) 小草

祈りに覚える人: 鈴木さん 関根さん

*ハンナの会 10月17日(火) 10:30

【教勢報告】

主日礼拝 男23 女55 計78
祈祷会 I. 男6 女3 計9 II. 男2 女8 計10
日曜学校 幼稚科5 小中科10 計15

【次週礼拝】 10月22日(日)

聖書: ミカ書 3:9~4:3
ヨハネによる福音書 16:20~24

説教: 「ミカ⑦ - 戦争が終わるとき」
武田真治牧師

讃美歌: 3(1)、32、355(1~4)、60(1~3)、
373(1~5)、24(1)

【次週当番表】

司式: 相浦長老 奏楽: 勝村 礼拝: 茨木長老

献金: 奈良 新元 受付: 金刺 坂田

会堂準備: 大野 勝村 黒澤 鶴巻

西尾

看板: 中村 週報: 飯島 お花: 飯島

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・聖歌隊練習

・礼拝/伝道/牧会/教育/社会 各委員会

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう! 主に癒され、整えられて」

2023年 10月 15日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>